80

道教と中国伝統医学
（第34回 道教医学へのアプローチ）

吉元　昭治
吉元医院

道教医学を研究しようとおもってもその糸口がつかめないのが現状である．まだその体系も整っていないし，この方面の研究者は皆無に等しい．これから道教医学とは何なのか，どのようなものかを開拓し構築していかねばならない．演者はこの学会でも関連した発表をすでに連続34年つづけているし，ことある毎に発表や口演をしてきた．今回もその研究の起爆剤になればと思いあえてその研究方法をわづか乍ら発表したい．道教医学についてはその三層構造を発表しているが（平成元年），この分類に従い，最近『正統道蔵』『道蔵輯要』『雲笈七籤』より医学に関する経典をえらび，さらに道蔵の解読書ともいうべき『道蔵提要』と比較対照し，『道蔵等医学関係経典索引』を出版した．これは事情で自費出版になったが，この方面を研究したい方々のぜひ座右においていただきたい．その活用は有意義だと思っている．演者は従来，道蔵等を参考とし，中国医学と結合させて，その中から新らしいものがつかめれば道教医学になると思っていたが，その後，諸子百家を初め中国古典や歴史文学等を見てみると，医学―道教―古典という三つのものが道教医学を理解するのに必要だと感じてきた．古代の思想なり，哲学や宗教といった面も同じ処から発していて，医学思想もまた同じだと確信するに到った．共通した文言・フレーズが垣根をこえて目にするようになった．その一例を挙げると，『黄帝内経素問上古天眞論第一』に黄帝の紹介として「昔在黄帝，生而神靈，弱而能言，幼而徇斉，長而敦敏，成而登天」とあるが，少し違う処もあるが『史記五帝本紀第一』『正統道蔵，黄帝内経素問補註釋文上古天眞論第一』『雲笈七籤，軒轅本紀』『大戴礼，五帝德第六十一』に同じようにある．これらは，道教，歴史書，儒教の書であり，黄帝というだけでも共通の認識があった事になるが，元来黄帝は道家，道教の尊ぶ処で，儒教では堯・舜・禹や周代を尚んでいる．これらの中国古代の思想をさらに遡ってみるとその根源は自然観より発しているといってよい．天地人，天人合一，天人相感，気の思想，陰陽説，五行説，運気説，易等が諸子百家，黄老思想等のフィルターを通して神仙思想，老荘思想，養生思想，さらには現世利益主義もうまれてくる．老荘思想―道家の思想は後漢時代農民革命の中から生れた原始道教の精神的な柱にもなりやがて道教へと脱皮していく．養生思想は不老長生を目的とする道教にも迎えられ，医学のバックアップが必要不可欠となり道教医学につながってくる．最後にいまのべた医学・道教・古典の中の重要と思われる書目を挙げておくので参考にされたい．

中医学：素問・霊枢・太素・八十一難経・神農本草経・五十二病方・傷寒論・諸病源候論・千金方・外台秘要・類経・内経知要・武威医簡・養生延命録・串雅内編・甲乙経・鍼灸大成・東医宝鑑（韓）・医方類聚（韓）・医心方（日）等.

道教：正統道蔵・道蔵輯要・雲笈七籤・蔵外道書・道蔵提要・太平経・周易参同契・内丹・外丹の経典・道蔵源流攷（正・続）・推背図・黄帝蝦蟇経・列仙伝・神仙伝・捜神記等.

古典：老子・荘子・列子・文子・管子・墨氏・呂氏春秋・春秋繁露・淮南子・抱朴子・山海経・水経注・中蔵経・周礼・論語・易経・五行大義・史記・漢書等の経籍志・論衡・甲骨文・竹木簡・春秋・国語等.

文学：水滸伝・西遊記・金瓶梅・三国志演義・封神演義・紅楼夢・老残游記・聊斎志異（以上民間信仰，民間療法が見られる）　唐宋詞（古くは楚辞・晋の陶淵明，次いで李白・白居易（白楽天）・杜甫・王維・蘇軾等，神仙思想が読みとれる）.